

## 報 告



## 第 114 回 (昭和 62 年度秋季) 講演大会記事

第 114 回講演大会は昭和 62 年 10 月 9 日から 11 日まで熊本工業大学で開催された。

## 開会式・臨時総会・表彰式

10 月 9 日午前 9 時 30 分から、熊本工大 F 館 2601 号室において開会式、臨時総会、表彰式が行われた。式は木下亨副会長司会のもと、はじめに川合保治実行委員長挨拶(九州大学名誉教授・新日本製鉄(株)顧問)および久松会長挨拶が行われた。

本日ここに、諸先輩をはじめ会員諸兄とともに社団法人日本鉄鋼協会第 114 回講演大会を開催いたしますことは、私の最も喜びとするところであります。

九州支部における講演大会は、昭和 55 年に北九州市で開催以来 7 年ぶりのことであり、今回で 11 回を数えます。しかしご当地熊本市では初めての開催であります。

開催に当たりましては、熊本工業大学学長中山義宗殿をはじめ大学当局のご理解により多くの会場をお借りすることができ、誠に光栄に存じております。

また、磯平一郎九州支部長、川合保治大会実行委員長をはじめ大会実行委員および関係者各位のご努力により本日を迎えることが出来ました。ここに厚く御礼申し上げます。

おかげさまで、今回の講演発表数は討論を含め 830 件であり、その内容は基礎から応用さらに萌芽・境界領域にわたり時代の要請に応えると共に将来への意欲が伺われ、ご同慶に堪えない次第であります。

本日からの 3 日間が会員諸兄にとつて極めて有意義でありますよう祈念いたします。

さて、本年 4 月の総会で少々ご説明いたしましたが、昭和 61 年度に行つた臨時協会検討委員会の報告の全文を、会誌「鉄と鋼」6 月号に掲載いたしましたので、会員各位にはご承知の通り各事業別に、詳細な内容が盛り込まれています。現在協会執行部ではこれを慎重に受け止め、本会運営に反映するよう鋭意努力中でありましてを申し上げます。

後刻、臨時総会でご審議願う議題は、臨時協会検討委員会の指摘の一つでありますのでご理解のほどお願いいたします。

また本会では、秋季講演大会に際し浅田賞、三島賞、林賞ならびに山岡賞の表彰を行つておりますが、受賞者には心からお祝い申し上げます。本日は、浅田賞ご受賞の豊田弘道殿と大沢恂殿には、受賞記念特別講演をお願いしておりますので、皆さんのご静聴をお願いいたします。

一方、経済界は内需拡大策等により多少明るさがありますものの、予断を許されない現況の中にあつて、本会は科学技術の研究開発を推進する学会として一層の努力を必要とします。今後とも会員各位のためまぬご研鑽をお願いいたして私のご挨拶といたします。

引き続き臨時総会の議事に入り、付議された議案は次のとおりである。

「春秋講演大会の講演概要集を有償配布に改める件」

春秋講演大会概要集は「鉄と鋼」から独立した「材料とプロセス」(日本鉄鋼協会講演論文集)に改め、春秋各 3 冊計 6 冊を刊行し、昭和 63 年から有償配布することに改め、本会財政の安定化を図るためのものである旨の議案説明を竹内久彌理事より行われ、満場一致をもつて議案が承認された。

つづいて浅田賞、三島賞、林賞、山岡賞の表彰が行われた(各賞理由は別記掲載)。

## 特別講演

表彰式につづいて浅田賞受賞記念講演が開催された。

## (1) 工業計測とリモートセンシング

東京大学名誉教授 豊田弘道殿

## (2) 日本の自動車工業と鉄鋼材料の進歩

(株)本田技術研究所技術顧問 大沢恂殿

## 講演大会

講演数は、製鉄 121 件、製鉄・製鋼共通 20 件、製鋼 159 件、加工・システム・利用技術 102 件、分析・表面処理 61 件、材料 238 件、萌芽・境界領域 100 件、計 801 件ならびに討論 4 テーマ(講演 29 件)が、18 会場に分かれ講演、討論が行われた。

討論会テーマは次のとおりである。

## 1) 高炉内における装入物の挙動

座長 斉藤 汎(鋼管)

## 2) タンディッシュメタラジー

座長 菊地 淳(東北大)

副座長 城田良康(住金)

## 3) 圧延プロセスにおける保全技術

座長 鶴田 毅(住金)

## 4) 粒界偏析挙動と鋼の性質

座長 榎並禎一(川鉄)

## 懇親会

10 月 9 日午後 6 時より熊本工大内レストラン志門において金属学会と合同で開催された。実行副委員長北島貞吉教授のもと、川合保治実行委員長、久松敬弘本会会長、佐伯 修金属学会会長、中山義崇熊本工大学長挨拶

の後、堀内清治熊本工大工学部長の乾杯の音頭で始められた。300名の参加者を迎え、各地から参集した会員間で歓談が午後8時すぎまでくりひろげられ、実行副委員長・新日本製鉄(株)第三技術研究所長 磯平一郎氏の万歳三唱並びに閉会の辞で散会した。

ジュニアパーティー

10月10日午後5時30分より熊本工大レストラン志門において開催された。各地より参加した180名の若手技術者、研究者を中心になごやかに懇談がなされた。

見学会

1) 婦人見学会 (10月9日)

熊本の歴史と文学めぐり(熊本城、伝統工芸館、神水苑、水前寺公園、立田自然公園、漱石記念館)が行われた。

2) 工場見学会 (10月12日)

井関農機(株)を見学後、阿蘇山火口見学が行われた。

コ ラ ム

立体視をどうぞ

我々は日常何気なくものを見ているが、対象の立体感、遠近感の認識は双眼に依存することは誰もが知っている。

動物の生存競争の過程での優生学的進化の産物なのか、はたまた天の配剤なのかは知らぬが、立体を認識する能力は貴重である。

ところが人間はその文化を伝達、保存する手段として古来主に2次元の媒体によつてきた。このような平面上に記述、描写された情報は、人間の本来具備している立体認知能力からすると、次元の欠けた不十分なものであるが、これを補う方法として、見取図、透視図、写真、ホログラフィーなど、必要に応じていくつか工夫されている。これらの一つに航空写真やステレオ図による立体視がある。

鉄鋼関連技術に限らず材料物性の研究分野では、結

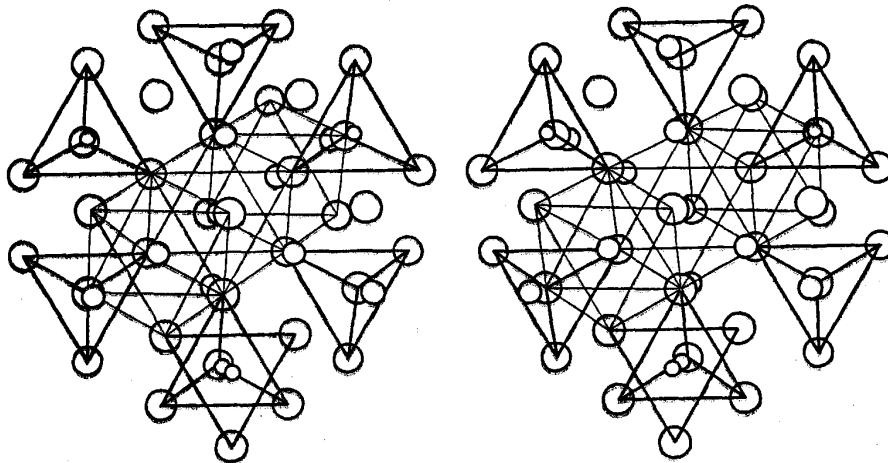
晶構造に関する知見は重要であるが、複雑な原子配列の立体的イメージを把握するのに、立体視は簡便で理解しやすく、何よりも素朴な感動を呼ぶことができる。

立体視を行うには若干の慣れを要するが、肝要なのは見ようとする意志であつて、そう困難なことではない。

下図に一例を掲げるが、左右2枚の図をそれぞれ左眼と右眼で等しく分担して、紙面のはるか遠方に視線を送りつつ、2枚の図が重なるようにすると、やがて2枚の図は3枚に見え中央の像が立体像を現すはずである。

我々の双眼も立体3次元に時間を加えて4次元を見る能力が付与されていれば、明日の経済動向も一目(二目?)で分かるというものであるが、神はそのような、おろかな人間どもの生きる意義を挫くようなことは、やはりお認めにはならなかつたようである。

(住友金属工業(株) 総合技術研究所 佐藤 駿)



(出典:岩波講座地球科学4 (松井義人, 坂野昇平編)(1982), p. 30 [岩波書店])

図 1.9  $\gamma$ - $Mg_2SiO_4$  の Si, Mg の配位多面体を示したステレオ図(原図は図 1.8 と同一)。 $SiO_4$  四面体は太線で示してある、 $MgO_6$  八面体は、すべて示すと稜共有のために図がたてこみすぎるので、ここには3個だけ書き入れている。